議会報告会
特集号

高原町
議会だより

the most beautiful villages in japan

多くのご意見ありがとうございました。

平成27年度 第1回

議会報告会

10月13日~29日 10会場で 開催しました。

高原町議会では、高原町議会基本条例に基づき、昨年１０月１３日（火）～１０月２９日（木）までのうちの５日間に町内１０会場で平成２７年度議会報告会を開催しました。秋の農作業で忙しい時期にもかかわらず、２３７人の参加があり、昨年を上回りました。

各会場では、様々な部門について、多くの質問や提言、要望があり、町民の皆さんの町政に対する関心の高さをうかがうことができました。要望や提言については、今後、議会の中で生かしていくことにします。また、要望事項については、すでに議長から町長に要望書が提出してあり、今後の町政に生かされるよう見守っていきましょう。

平成２７年度　第１回 議会報告会日程

日　時	場　所	対象地区		参加者数	備　考
10月13日（火）	ほほえみ館中研修室	下麓・蒲牟田	1班	１０人	
	並木児童館	並木・常盤台	2班	５５人	
10月14日（水）	花堂むらおこしセンター	花堂・小塚	1班	２２人	
	ほほえみ館中研修室	上麓	2班	３５人	
10月19日（月）	下広原構造改善センター	下広原	1班	１１人	
	湯之元集落センター	中平・湯之元・祓川	2班	１５人	
10月26日（月）	後川内小学校体育館	上・下後川内・川平	1班	２９人	
	鹿児山農業構造改善センター	出口・鹿児山	2班	３５人	
10月29日（木）	狭野小学校体育館	北狭野・南狭野	1班	１９人	
	広原小学校体育館	上広原・西広原	2班	６人	合計237人

1 班	★温谷　文雄・宮司　勲・清水　公雄・北迫　泉・陣　圭介
2 班	★松元　茂春・入佐　廣登・益本　一博・中村　昇・反田　吉已

（★班長）

◇町の財政状況について

問 地方交付税、国庫支出金、県支出金が平成25年度と比較してマイナスになっているが？

答 普通交付税の減少は、人口減少等による算定経費の減少や公債費の減少等によるものであり、国庫支出金の減少は、地域の元気臨時交付金等がなくなったことによる減少である。また、県支出金の減少は、介護基盤緊急整備等臨時特例基金事業等がなくなったことによる減少である。

問 町債はどのようになっているのか。

答 【図表（1）】のとおり。

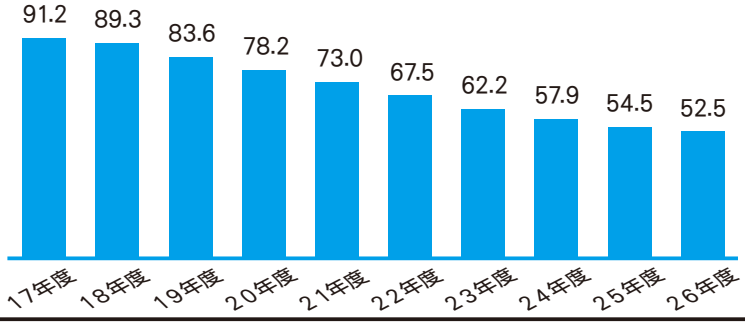
問 財政力指数等について、次回からは他市町村との比較も教えてほしい。

答 次回からは公表できるよう準備する。

問 病院事業への繰り出しは、病院の先生方への給料改定か？

答 繰出金の中身は、償還金や救急医療体制の負担金、医師確保等である。

町債の残高（単位：億円）　【図表（1）】



◇地方創生について

問 今、全国的に地方の創生が言われているが、高原町ではどんな計画になっているのか。人口減少に対する対策はどうなっているのか。

答 総合戦略については、プロジェクトチーム（神武の里たかはる総合戦略策定審議会）を作って取り組んでいるところ。議会としても、今後協議していく。花嫁対策等にも取り組んでいる。また、若い世代の就労・結婚・子育てなどの支援や企業誘致等も進めながら、若い人が安心して暮らせる町づくりに取り組んでいく。

◇定住促進について

問 婚活イベントは、ある程度年齢の高い人には、受け入れられにくい。鹿児島県の仲人制度（仲人をして成立すれば、お金の交付がある）を高原も取り入れてはどうか？

答 議会でも、南さつま市にきもいりどん制度の視察に行った。町にも内容について報告をした。また、本町では、人口減少をくい止め、また、若い人への出会いの場を提供する目的で婚活事業を行った。今回いただいた要望も含め再度、申し入れ等していく。

問 定住対策で、若い人を呼び込む計画があるが、定住はどのくらいいるのか。

答 これまでに、移住が6件、定住が10件となっていると説明を受けている。

問 高原の街中に活気がないように思うが。

答 地方創生の流れの中で、各市町村には、今後の人口推計を基礎とし5ヵ年間を区切りとする総合戦略を策定することが努力目標として定められており、高原町も年度内に策定し、国に提出する。この5ヵ年間については、国からの予算措置がある。先ず総合戦略策定の基礎となる人口ビジョンが定められ、総合戦略における構想の中で、まちづくりの計画が定められる。この策定の段階で、高原町の活性化も含めて各団体の意見を聴取することになる。

総合戦略の策定については、現在、基本的な構想を一部委託しながら、その中身の検討を当局が行っているところである。

◇子育て支援について

問 子育て支援センターでは、子供だけでは預かってくれない。母親は自由な時間がほしい時がある。短時間でも子供だけを預かれないか。

答 子育て支援センターは親子の交流の場・子育ての悩みなどを聞く場である。子供を預ける場としてはファミリーサポートセンターの立ち上げを予定している。

問 学童保育についての考え方を教えてほしい。

答 町内4か所で学童保育を行っている。現在、広原・後川内では行われていない。要望があれば、町も対応するということであった。また、対象年齢について、小学校6年生まで広げている。

問 保育士は足りているのか？

答 6月議会に保育士確保の請願があがってきた。本町でも、保育士が不足しており、人材バンクの設置が予定されている。

問 子育て支援センターの仕事の内容について教えてほしい。

答 ほほえみ館内に設置された施設で、2人の方が交替で、午前午後に分かれ、家庭で育児を行う親と就学前までの子供さんを対象とし、親子で参加している。子供さんの遊びを中心に、親子がいっしょに育つための支援を行い、保護者と養育の話をしたり、誕生会等を実施したりするものであり、非常に好評を得ている。

◇町立病院について

問 町立病院について町民の中に不安と心配がある。

答 病院の常勤の医師が4人から3人に減少した。全国的に医師不足で診療にも支障が出ている。今、病院では、医師の確保に全力を挙げている。

問 診察を受けると、すぐ紹介状が出るというが、本当か。

答 町立病院の医師が診られる部分については対応しているが、専門的なものについては、専門の病院に診てもらったほうが良いので、紹介している状況はある。

◇企業誘致について

問 人口が減少し、高齢化している。高原町は、環境条件は恵まれている（高速道路、IC、鹿児島・宮崎両空港に近い等）。高原町出身の企業経営者の方に高原町内で起業してもらえるようお願いしてみたらどうか。町独自での企業誘致活動はしているのか。

答 関東・関西での町友会の折に、企業経営者の方にはお願いしている。

◇環境問題について

問 高齢化に伴い、ゴミの分別が困難になってくる。都城市では、なんでも燃やせるようになったが、高原町の今後のゴミ行政はどうなっているのか？

答 分別については、今もやっているので慣れだと思う。これ以上の分別になってくると大変だとは思う。高原町のゴミは、現在、えびの市に処理を委託しているが、えびの市では、焼却炉の建て替えが検討されている。

◇霧島美化センターについて

問 埋め立て処理施設の延命化を図るために、リサイクルを行っている。新しく何十億円もかかる埋め立て地を造るのか？

答 埋め立て処理施設には二つの工区があり、第一工区の埋め立てが終わった後に、そのまま美化センターを廃止するとのことである。新たに最終処分場を設置することは絶対にしない、との当局の回答であった。現在、その後の廃棄物の受け入れ先を探している。延命化を図るということと、コスト面で比較した上で当局の説明を求めたところ、延命化を図るよりも他自治体にお願いしたほうが安くすむとのことだった。また、霧島美化センターは、高原町と旧野尻町、旧

須木村で作ったもので、運営費用は本町だけで負担しているものではない。

◇公共施設について

問 神武ホールの運営状況について、老朽化が進んでいるのではないか。メンテナンスにも影響が出てくるのではないか。また、最近の利用状況はどうなっているのか。箱物の建設はいいが、金（維持管理費）がかかるのではないか。

答 平成26年度の利用実績は、施設利用回数が36回、利用人員が6，239人となっている。

◇「道の駅」について

問 議会を傍聴したが、道の駅について、町側はほぼ決定しているような答弁だった。投資対効果等を明確にし、住民にわかりやすく説明してほしい。

答 道の駅については、現状では正確な回答ができない状況にある。これから高原町活性化対策特別委員会で協議していくことになっている。

問 道の駅について、その内容はどうなっているのか。

答 道の駅については、土地取得を含め、道の駅を造る上で、最適な場所であるという考えの下で、構想が挙がってきている。国交省を含めた国道改良と併せて、町と一体的に道の駅を造るとの説明を受けている。

問 建物の取り壊し費用も町が負担するのか。更地が基本ではないのか。

答 土地の価格については、建物を壊し、更地の状態で買うのが基本であるという考えを当局には説明済である。

問 担当課があるのに、基本構想の策定を委託しなければならない理由は？

答 道の駅そのものの考え方として、基本構想が無い状態での判断は議会としても難しい。当局は、国道改良を含めた一体的な道の駅の設置を考えている。そのため、事業費を把握した上で、国、県と協議することになる。今後、基本構想を元に事業を検討していく必要があるので、基本構想策定に係る予算については可決した。

問 基本構想策定委託費約950万円の内訳は？

答 施設内容の検討、アンケート実施後の対応、管理運営の形態や道の駅検討委員会（仮称）の立ち上げに関する構想策定費用である。

問 進捗状況と今後の流れは？

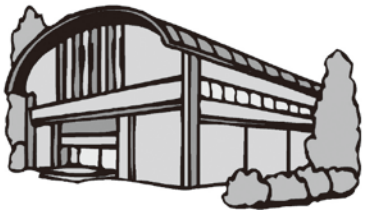
答 議会としては、道の駅を造るという前提で、予算を決定した訳ではない。また、町が整理し、用地交渉が成立するのはこれからであり、土地の買収も決定した訳ではない。
道の駅の中身や管理、運営等の体制、本来の役割の実現性については、当局から示されなければ、議会も判断ができない。構想の中身を議論し、町民参加型での販売品や道の駅建設後のこと、町の財政について、農協、商工関係を含めた体制作りを含めて考えていく。
しかし、町の提示する資料や考えのみで判断すべきではなく、独自に知り得た情報を基に、道の駅の建設についての考え方を整理していく。
調査項目を決めた上で、県内、県外の道の駅の実態を議会自ら調査し、比較・検討して判断材料にし、最終的な判断を行う。

問 調査を行う上での問題点等が決まっていれば教えてほしい。また、どういった観点で見てまわっているのか。

答 クリアしなければならない問題として、「資金的な考え方及び対応」、「住民の参加について」、「販売に頼れるものが高原町にあるか」等がある。「建設の目的」、「造った後の維持管理費について」、「経営内容の流れ」を中心に調査し、経営が厳しい場合は、その背景に何があるのか等整理し、検討していく。町民参加型が基本であり、構想の段階で地場産品についての取扱も検討が

必要だと考える。

◇総合体育館の建設について



問 体育館の建設計画にあたっては、町民の声（アンケート等で）聞くべきではないか。

答 アンケートは予定されていると聞いている。

問 大きな体育館を造って、町民がどれだけ利用するのか。

答 今後の検討課題である。新燃岳噴火の時ほほえみ館が避難所となった。体育館は、災害等の避難ができる総合的な施設にしてほしい。

答 町側もそのような意向にあるとの説明を受けた。

問 維持管理費等の説明が執行部からきちんとなされていないと聞くが、議会として、どこまで検討しているのか。

答 3月議会で、総合体育館の基本設計の予算が上程された。大きな体育館という話は聞いていたが、大きさの定義や面積について、明確でない状態であった。そこで、ストレートに体育館を造るという話ではなく、体育館の必要性や大きさの根拠等、体育館についての考え方を再度まとめて欲しいことを当局に伝え、基本設計を作り、資料を決めるための調査を、現在委託しているところである。町民に周知する必要はあるが、まだ、周知の段階まで至っていない。是非を巡っての協議の時に、町民への周知が必要になると考えている。

今後、議会としては議会基本条例に基づき、いろいろなところを調査し、適正な規模、後の維持管理を調査し、固めた上で、予算を含めて精査、協議していく。

問 県外の体育館の調査に行って、どういったところをみるのか？また、当局の提案に沿って調査するのか？

答 同じ人口規模の市町村で、新しい体育館のあるところを対象とする。メンテナンスや維持管理、全体の建設費用、アリーナの中身、国、県からの補助金や市町村の財政力、運営の仕方、今後の財政の見通し等調査する。造るかどうかについては、今後の調査内容や、当局の説明によって決める。当局からは、事業費が見込まれていないと、財政的な整理等もできないとの説明だった。調査は、当局提案に沿っての視察ではない。

問 少子高齢化の中で、総合体育館の構想の内容はどのようなものか。

答 本町には、3つの体育館（町民体育館、同分館、旧中学校体育館）が存在し、いずれも老朽化が進み、耐震性も無い状態である。更新に際しては建て替えが前提である。3つの体育館を統合するというよりも、現存する体育館の耐震工事等に費用がかかるという説明を受けている。3つの体育館を取り壊して、新しい体育館を建設することになると、大きな体育館ということになるので、3つの体育館の総床面積程度の規模が必要かどうか等、考え方を今整理中である。

問 将来、少子化に伴い、小中学校が統合された時に、学校といっしょに体育館の建設の話になるのではないか。今、造っても無駄な気がする。

答 総体的に、学校も環境整備も含めて、体育館の位置づけについて、造るかどうかの話で議論される問題である。ただ体育館のみを考えるという話にはならない。

◇観光行政について

問 高原町内に活力がないように感じる。皇子原公園を活力ある公園にしていくことも考えなければならない。活力

あるものにしなければ、観光施設がある意味がない。今後どうすべきか聞きたい。

答 観光について、御池は、下までなかなか降りられない状況であり、店舗も閉まっており、利用が少ない。皇子原公園をどうするのかについても総合戦略の中で考えなければならない。予算についても考えるべきである。

議会としては、特別委員会の中で、総合戦略を作っている先進的な町を研修したり、総合戦略のあるべき姿を議員間で討議しながら、議会の考えを反映させていきたいと考えている。観光面での考え方を聞いた段階で、持ち帰り、本町の観光事業を一つの構想の中で考えていかなければならないと思う。

問 観光ＰＲが少ないのでは？

答 発祥地まつりなどは、町外にＰＲするために試行錯誤している。

また、高原町の案内人（専任で2名）がおり、観光客に対して史跡等を案内する事業が実施されている。

◇消防団員の処遇改善について

問 現在、消防団員は、出動1日に2，500円という費用弁償をもらっている。役場職員や農協職員は特例があるが、一般の会社等に勤める消防団員は、消防出動は休みを取って対応し、その分は給料が出ないなど、消防団員の苦労を分かってほしい。また、消防団の処遇改善について議会として、町に要望をしてほしい。

答 以前、議会の一般質問でも、団員の処遇について出た。いろんな意見を集約し、反映していきたい。要望として承る。

常任委員会においても、年4回所管事務調査を行っている。その中で、意見を出してもらい、委員会で要望をすることも可能。

◇学校の統廃合について

問 数年前に学校の統廃合の話があり、検討委員会も立ち上がり、検討委員会では、統廃合すべきとの結論になったが、町長が、財源の問題で統合はしないと言ったが。

答 平成21年に、教育委員会主導で高原町立小中学校規模適正化検討委員会が立ち上がり、町内49名の方々が、1年間、統合の是非を議論した。町内の小中学校の児童数が減り、複式学級になった小学校もあったことから、最終的に、統廃合すべきとの結論になった。当時の検討委員会の会長が、教育長に方針を出した。それを受けて、教育長が町長へ報告を行った。

一方、町は、学校建設に費用を要することや、少人数学級でも良いのではないかとの考え等があり、統廃合はしなかった。議会としても、一般質問を行ったが、今後も検討するという答弁で、統廃合しないということにはなっていない。

問 学校統合を検討し、スクールバスを走らせるなどして、既存のものを使い、若い人が暮らしやすい、子育てしやすい町にすることで、定住化の対策をしなくても、若い人が入ってくると考えるが。

答 最終的には、保護者の考えが大切になってくる。保護者から、統廃合の要望が多ければ、そうなってくる。しかし、現段階では、そのような動きになっていない。

昨年の文教厚生常任委員会において、青森県野辺地町にて、学校統廃合の調査を行った。保護者の方が、複式学級でも良いという考えにあると統廃合も難しくなってくる。

問 メリット、デメリットを挙げて、気づきをし

ていただくことも良いと思う。その上で、保護者の考えを聞いてほしい。

答 その流れも必要である。所管事務調査の中で、各学校の先生方、保護者、ＰＴＡ役員の方とも意見交換会を行った。議会の中では、再度、意見があったことを整理していきたい。

◇ご意見と要望について

○議会報告会日程の最終日や日曜日に、ほほえみ館で開催し、各会場で出席できなかった町民が参加できるようにはできないか。

○高原町の財政は危機的状況にあることを考えて、提案する議会であってほしい。

○町の財源が少ない現状では、予算をどのように有効に活用するかが問われている。このままでは、町はますます過疎化する。

議会報告会で出された町への要望事項

町議会では、今回の議会報告会で出されました町の施策等に関する要望事項について、下記のとおり取りまとめ、１２月１日、議長・副議長及び常任委員長が町長に提出しました。

① 消防団員の処遇改善について
② 仲人制度への取り組みについて
③ 子育て支援センターの運用拡充について
④ 役場受付のワンストップ体制について
⑤ リサイクル補助の還元率・還元額について
⑥ 町体育館分館の補強と存続について
⑦ 上麓地区の公民館施設について
⑧ 子ども医療費助成の拡充について
⑨ 教育施設の補修について
⑩ 有害鳥獣対策の推進について
⑪ 観光施策の充実について
⑫ 道の駅・総合体育館について
⑬ 観光施設（皇子原公園・御池）の充実と活用について
⑭ 町立病院の現状と診療の充実について
⑮ ケーブルテレビの活用（議会中継）について
⑯ 今後の高原町のビジョンについて

あとがき

町民の皆さま、あけましておめでとうございます。

暖かいお正月にこのまま暖冬かと思っていたところ、やはり、冬将軍は忘れていませんでした。最近の寒さは、この時期の平年並みなのでしょうが、いつもよりなお一層寒く感じられます。

年末からの暖冬は、農家の農作物への影響や商店での冬物洋服の売れ行きなど、いろいろな影響が考えられ、大変心配するところです。

昨年の10月に実施しました、「議会報告会」の議会だより特集号が出来上がりました。会場においでになられた方も、都合で参加できなかった方もご覧の上、ご意見を賜りますと大変ありがたく思います。10ヶ所の会場での参加者の合計は、２３７名でした。町民全体からすると、３％にも満たない数字です。時期や方法等、今後考慮すべきことはたくさんありますが、一つずつ検討して多くの町民が参加し、多くの意見や要望が集約される報告会にしていきたいと思っています。

お忙しい中、参加いただきました皆さん、大変ありがとうございました。

■発　行／高原町議会　　■編集／議会だより編集委員会
〒889-4492　宮崎県西諸県郡高原町大字西麓899番地　☎(0984)42-5138
■発行日　平成28年２月１日